

広島県空港振興協議会「空港活性化部会（第1回会議）」について

1 概要

広島空港の将来像や今後の運営のあり方等について検討するため、広島県空港振興協議会に県、市町及び経済団体等を構成員とする専門部会として設置した「空港活性化部会」の第1回会議を次のとおり開催した。

2 会議内容

(1) 日 時 平成27年12月3日(木) 10:00~12:00

(2) 会 場 広島県庁北館4階 第3委員会室

(3) 出席者 出席者名簿のとおり

(4) 主な内容

ア 空港活性化部会について(資料1,2)

イ 空港を取り巻く状況について(資料3)

講師：関西外国語大学教授 引頭雄一

ウ 広島空港の現状及び将来に向けた課題について意見交換(資料4)

(ア) 事務局から資料4に基づき広島空港の概要及び広島空港の現状と課題を説明した。

(イ) 出席者からの主な意見

- ① これまでのアウトバウンド主体の空港から、インバウンドを積極的に取り込んでいける空港への変革は避けては通れない。そのために、アジアの活力を取込んでいくためのネットワーク拡充が重要だが、同時に広島のみである欧米からの観光客を空港利用にどう繋げていくかということも考えていく必要がある。
- ② 拠点性の向上には、利用圏域を拡大していくことが不可欠であり、そのためには広域的な観光連携の取組みと連携を図っていくことが重要ではないか。
- ③ 仙台線はビジネス利用が多いということなら、今後交流が発展拡大する可能性があるのではないか。
- ④ 広島空港の将来像を考えていく中で、貨物輸送のあり方も十分に検討していく必要がある。
- ⑤ 周辺施設等を含めた広域的な観点での広島空港の魅力づくりを考えていく必要がある。
- ⑥ 近隣空港間の競争において駐車場が有料であることがネックになっているのではないか。将来的にはリニア中央新幹線の開通も予定されており、新幹線との競争においても厳しい状況が予想される。アクセスの改善として県営駐車場を無料化すべきではないか。また、ファンドを活用して投資を行うなどにより、軌道系のアクセス手段を整備すべきではないか。

- ⑦ 空港は地域の交通結節点であるべきで、アクセス改善が重要な課題である。アクセスの速達性や定時性の強化は言うまでもなく、レンタカーや駐車場のサービス向上や、広域集客やインバウンド客にも対応できるアクセスネットワークの多様化などに取組んでいくべきである。
- ⑧ 山陰へのアクセスは課題の一つであり、利用促進のためにはフライトロードを中国横断自動車道尾道松江線に接続することが必要ではないか。

(5) 資料 別添のとおり

3 今後の予定

平成 28 年 2 月上旬に第 2 回会議を開催予定（調整中）

【主な内容（予定）】

- ア 空港経営改革について有識者からの聴取
- イ 広島空港の今後の方向性について委員からの意見・提案
- ウ 空港運営のあり方について意見交換